

平成 7 年 度 事 業 計 画

長い平成不況が終わりを告げたとのことであったが、阪神大震災もあり、円高がまたもや襲って来た。日本経済はまだまだ低空飛行が続き、徐々に回復に向かうとの年初の予想に反してまたもや混乱の中に入っていくようにも見られる。

こうした社会経済環境の中で、ニューガラスフォーラムは、今年創立10周年を迎える。今後の産業展開は、情報通信産業、生活文化産業、医療産業、環境産業等を中心として展開するとされており、この中で、ニューガラスは21世紀の社会インフラストラクチャー構築のための素材として、また、環境に優しい新素材として期待が益々高まっている。

今年は初心に戻って10周年記念行事の中で今後の運営について見直しを進めると共に、会員のニーズを適確に捕らえ、その要望に応じて平成7年度の事業展開を図りたい。以下、定款の箇条に従って事業計画を述べる。

1. ニューガラスに関する産業及び技術開発動向等の情報の収集及び提供 (定款 第4条第1項第1号関係)

機関誌“NEW GLASS”の発行

ニューガラスに関する国内外の新製品・新技術の紹介、内外のニュース、関連産業の動向、技術解説等を内容とした機関誌“NEW GLASS”を4回発行し、会員等に提供する。また、昨年に引続き当フォーラムのイベントについての広報活動を積極的に展開し、参加者数の拡大を図る。

2. ニューガラスの産業及び技術開発動向等に関する調査研究

(定款 第4条第1項第2号関係)

以下に述べるような調査研究を行ってニューガラス産業発展のための基礎資料を作成し、会

員に情報の提供を行なう。

(1) 産業構造の高度化に及ぼすニューガラスの波及効果に関する調査研究

高度情報化社会のインフラストラクチャーの整備が進められる中で、ニューガラスがこうした分野に対してどの程度貢献し得るか、貢献できるとすればその内容や程度、実現のための課題は何であるかを明確にする。本年度は特にニューガラスの電・磁氣的機能に着目して調査研究を実施する。(通商産業省からの受託を予定)

(2) ニューガラスの先端加工技術に関する調査研究

現在、液晶などのニューガラスを用いた機器は我が国が世界に製品を供給する立場にあるが、このような状況下で、素材としてのニューガラスの先端加工技術への関心は高まっており、現状を調査してこれを業界に示すことは、会員企業及び関連機械産業界の要望に応え、時期に適ったことと考えられる。

今回はニューガラスの中でもICフォトマスク、液晶用を主とするディスプレイ用基板ガラス、磁気ディスク用基板ガラスを取り上げ、これらに対して求められている形状・寸法に関する要求品質の現状を調べ、その品質を実現するための切断技術、表面研削・研磨技術、及び加工精度に関する検査技術についての現状と今後の技術開発の方向について調査研究する。(日本機械工業連合会より委託を予定)

3. ニューガラスに関する講習会、講演会及び研究会等の開催

(定款 第4条第1項第3号関係)

(1) 研究会の開催

ニューガラスに関するシーズとニーズの出会いの場と討論に主眼を置き、昨年度に引き続いて次の4つのテーマについて研究会を開催する。

1) 応用製品・技術研究部会

ガラスの新しい応用製品とこれに係わる技術の研究開発動向及び市場動向について研究する。本年度はマルチメディアを中心として新たな展開が期待される光通信・情報処理、ディスプレイ等の分野に重点をおいて運営する。

2) 先端加工・薄膜技術研究部会

ガラスをデバイス、機器として活用する際の基盤技術である先端的な精密加工と薄膜に関する研究開発動向を中心課題として運営する。先端加工技術としては、超精密機械加工技術の他に表面改質、熱間加工等の広い分野を対象とする。

3) 機能材料研究部会

ガラスの基礎物性・科学、各種機能性ガラスに関する研究開発動向を中心課題として運営する。ガラスと競合関係にある結晶、セラミックス、高分子材料等の研究開発動向についても取り上げる。

4) リサイクル研究会

産業用機械(テレビ、自動車、冷蔵庫、パソコン、コピー等)に使用されるガラスのリサイクルの現状研究を中心課題とする。講師を招いて勉強する他、実施でも見学会を行なうなどの調査研究を進める。

(2) セミナーの開催

研究者、技術者等を対象にニューガラスに関する最新の技術開発動向等を紹介する。当フォーラムの自主調査、受託調査の資料を活用してセミナーを開催する。セミナーのテーマとしては「高度情報化社会とニューガラス」、「ガラスセラミックスの現状と展望」、「ガラスの膜の堅さ測定」、等を予定している。

(3) 講座の開催

1) ニューガラス基礎講座

これまで、主として大学等でガラス工学を履修する機会を持たなかった会員企業のニューカマーを対象に、ニューガラスの基礎と利用技術に関する講座を開催してきた。受講者の減少などの現状もあり、今年は1年休んで来年からの再発足に備えることとした。

2) やさしいニューガラス講座

主として調査、企画、営業などを担当する人々を対象としてニューガラスに関するホットな話題を取り上げ「やさしいニューガラス講座」を開催する。

今年は、『PLについて』、『非球面レンズについて』等を予定している。

(4) ニューガラス産業の普及啓発

会員の協力を得て「現代ガラスの博物館」にニューガラスの展示を行い、ニューガラスの普及啓発を図る。特に今年は10周年記念事業の一環として、秋の国際シンポに合わせてニューガラス10周年展示会を行う。

(5) 若手懇談会の開催

産・官・学の若手による自由闊達な意見の交換を行い、人の交流を深めながら将来のニューガラスの発展とニューガラス産業を支える人脈作りを目指して、若手懇談会を開催する。

(6) 見学会の開催

会員のニューガラスに関する知識の向上や異業種間の交流を図るため、会員企業等を訪問する見学会を行なう。

4. ニューガラスに関する国際交流及び協力

(定款 第4条第1項第4号関係)

(1) ニューガラス国際シンポジウムの開催

「21世紀を拓くニューガラス」(New Glasses-the Material Leading toward the 21st Century)をテーマに、十周年記念事業の一環として第5回ニューガラス国際シンポジウムを開催する。21世紀の発展を先導するマルチ

メディアや新エネルギー等の新産業にニューガラス産業がどの様に貢献出来るかについて、内外の有力研究者による招待講演とパネルディスカッションにより紹介する。また、ポスターセッションでは近年進展が目覚ましいオプティクスやエレクトロニクスのキーパーツとして重要な役割を果たしている各種ニューガラスについて発表する。

(2) 国際ガラスデータベース

世界のニューガラス産業の発展のため、国際的に貢献することを目指して構築した「国際ガラスデータベース」は内外で高い評価を受け、バージョンⅠ及びⅡを合わせた販売数は220枚に達している。本年度は平成5年度に上市したバージョンⅡに引き続きバージョンⅢを平成8年4月に発売すべく準備を進める。バージョンⅢでは新しいデータを約4万件追加し、全データ数は15万件を越える予定で、質量共に充実したガラスデータベースの構築を目指す。

5. ニューガラスに関する標準化・規格化の調査研究

(定款 第4条第1項第5号関係)

(1) ニューガラスの性能評価方法の標準化に関する調査研究

前年度からの継続テーマである「熱的特性の評価方法の調査研究」に加え、新規テーマとして「光学的特性の評価方法の調査研究」に着手する。

(工業技術院から委託を予定)

(2) J I S 原案の作成

「ガラスを基板とした薄膜の付着性の試験方法」についてJ I S 原案を作成する。スクラッチ法を中心とした薄膜とガラス基板の付着力を評価する方法。

(工業技術院から委託を予定)

6. ニューガラスに関連のある団体、学会及び研究機関との協力

(定款 第4条第1項第6号関係)

(社)日本セラミックス協会、新素材関連団体連絡会その他内外のニューガラスに関連のある団体、学会及び研究機関の事業に協力し、相互の連携を図る。

(社)アルコール協会、(社)ファインセラミックス協会、及び(財)ファインセラミックスセンターと協力して、金属エトキシドを原料とするニューガラス製造技術などについてシンポジウムを開催する。

7. ニューガラスフォーラム創立10周年記念事業

平成7年度は創立10周年を迎えるので、記念事業を行なう。以上の記述と一部重複するが、その内容は下記の通りである。

(1) 記念講演

5月末の通常総会の折りに特に講師を依頼して、記念講演会を開催する。

(2) ニューガラスの市場調査

野村総合研究所に委託して、1994年度におけるニューガラスの市場を調査し、これに基づいて、2005年におけるニューガラス市場について予測する。

(3) 記念展示会

現代ガラス博物館において、第5回ニューガラス国際シンポジウムの時期を含む1ヶ月の間、10周年記念展示会を行う。

(4) 第5回ニューガラス国際シンポジウムの開催

内容は前述の通りである。

(5) 感謝状の贈呈

第5回ニューガラス国際シンポジウムの機会にこれまでニューガラスフォーラムの発展に貢献された内外の方々に感謝状を贈呈する。

(6) 記念出版

これまでニューガラスを紹介する出版物としては、フォーラムのパンフレットがあるが、これをバックアップするものとして、グラフィック形式のパンフレットを発行する。

平成 7 年 度 収 支 予 算
平成 7 年 4 月 1 日～平成 8 年 3 月 31 日

(収入の部)

(単位：千円)

大 科 目	中 科 目	予 算 額 (A)	前年度予算 (B)	増 減 (A) - (B)	備 考
会 費 収 入		43,900	46,100	-2,200	
	入 会 金	100	100	0	
	正 会 員 会 費	33,000	35,000	-2,000	
	賛 助 会 員 会 費	4,800	5,000	-200	
	特 別 会 費	6,000	6,000	0	
事 業 収 入		21,450	29,180	-7,730	
	情報収集提供事業	1,700	1,700	0	
	調 査 研 究 事 業	6,250	14,880	-8,630	
	波 及 動 向 ゾ ル ゲ ル	4,000 0	4,000 8,000	0 -8,000	補助事業終了
	先端加工 (日機連)	2,250	2,880	-630	
	講習・講演・研究会	6,200	9,200	-3,000	
	4 研 究 会	4,000	4,500	-500	一年休み(準備のみ)
	セ ミ ナ ー	600	400	200	
	やさしい講座	200	400	-200	
	基礎講座	0	2,600	-2,600	
	ガラス博物館	1,000	1,000	0	
	見 学 会	100	0	100	
	若 手 懇 談 会	300	300	0	
	国 際 協 力 事 業	0	0	0	
	標 準 化 事 業	2,800	3,400	-600	
	新 素 材 標 準 化 J I S 原 案	2,400 400	3,000 400	600 0	
	10周年行事収入	4,500	0	4,500	10周年事業国際 シンポ参加費
雑 収 入		1,400	1,400	0	
	金 利	1,200	1,300	-100	
	資 料 頒 布	200	100	100	
当 期 収 入 合 計 (a)		66,750	76,680	-9,930	
前 期 繰 越 収 支 差 額		40,456	33,360	7,096	
収 入 合 計 (b)		107,206	110,040	-2,834	

(支出の部)

(単位：千円)

大 科 目	中 科 目	予 算 額 (A)	前年度予算 (B)	増 減 (A) - (B)	備 考
事 業 費		36,030	36,680	-650	
	情報収集提供事業	4,500	4,600	-100	
	調査研究事業	6,300	15,300	-9,000	
	波及動向調査 ソルゲル法調査 先端加工(日機連)	4,000 0 2,300	4,100 8,200 3,000	-100 -8,200 -700	終了
	講習・講演・研究会	9,500	13,200	-3,700	
	4 研 究 会 セ ミ ナ ミ し い さ し い 基 礎 講 座 ガ ラ ス 博 物 館 見 学 若 手 学 生 会 若 手 学 生 会	4,000 800 200 100 4,000 100 300	4,900 1,200 400 2,200 4,000 100 400	-900 -400 -200 -2,100 0 0 -100	一年休み
	国際協力事業	0	0	0	
	標準化事業	2,850	3,500	-650	
	新 素 材 標 準 化 J I S 原 案	2,400 450	3,100 400	-700 50	
	関連団体との協力費	80	80	0	
	10周年記念事業	12,800	0	12,800	
	市 場 調 査 展 示 会 国 際 シ ン ポ ジ ウ ム 感 謝 状 贈 呈 記 念 出 版 記 念 講 演 (総会)	2,000 2,000 5,000 300 3,000 500			
管 理 費		38,200	39,000	-800	
	役 職 員 給 与 福 利 厚 生 借 入 費 器 具 備 品 消 耗 品 通 信 費 印 刷 費 旅 交 情 報 交 流	14,600 1,100 12,000 200 900 1,900 1,400 1,000 500	14,500 1,200 12,000 0 600 2,700 2,200 1,000 400	100 -100 0 200 300 -800 -800 0 100	
	広 報 費	800	800	0	
	会 議 費	1,800	2,200	-400	
	雑 費	1,600	1,200	400	
	租 税 公 課	400	200	200	
積 立 金	退 職 積 立 預 金	1,000	1,000	0	
予 備 費		0	0	0	
当 期 支 出 合 計		75,230	76,680	-1,450	
当 期 収 支 差 額		-8,480	0	-8,480	
次 期 繰 越 収 支 差 額		31,976	33,360	-1,384	

平成7年度 データベース事業収支予算

平成7年4月1日～平成8年3月31日

(収入の部)

(単位：千円)

大 科 目	中 科 目	予 算 額 (A)	前年度予算 (B)	増 減 (A) - (B)	備 考
販 売 収 入		2,445	2,445	0	
	データベース新規販売	1,080	1,080	0	540×2
	バージョンⅡ販売	1,365	1,365	0	195×7
雑 収 入	預 託 金 金 利	1,680	0	1,680	
当 期 収 入 合 計		4,125	2,445	1,680	
前 期 繰 越 収 支 差 額		5,792	32	5,760	
収 入 合 計		9,917	2,477	7,440	

(支出の部)

(単位：千円)

大 科 目	中 科 目	予 算 額 (A)	前年度予算 (B)	増 減 (A) - (B)	備 考
事 務 局 費		1,100	1,020	80	
	一 般 管 理 費	0	0	0	
	諸 経 費	1,000	1,000	0	
	租税公課(消費税)	100	20	80	
器具備品費		170	220	-50	
	事務機器リース料	170	220	-50	
	器 具 備 品 費	0	0	0	
事 業 費		16,500	750	15,750	
	入力費及び開発費	15,000	550	14,450	
	販 売 促 進 費	1,500	200	1,300	
予 備 費		500	455	45	
当 期 支 出 合 計		18,270	2,445	15,825	
収入合計に対する収支差額		-8,353	32	-8,385	